

令和7年度 普及情報誌

あぐりまにわ



目次

I 特集	
【1】環境に配慮した水田農業の推進	2
II 地域の動き	
【2】真庭と勝英のクラブ員が交流会	3
【3】真庭で農業を始めませんか～真庭農業PRの取組～	3
【4】HACCPを学んで、漬物加工に取り組もう	4
【5】簿記・税務研修会で経営改善を支援しています	4
III 技術の紹介	
【6】水稲栽培における栽培管理システムの活用	5
【7】「仲間づくりと連作障害対策」で白ねぎ産地を支援	5
【8】送風ダクト、トマトハウスの昇温抑制に効果	6
【9】こまめな副梢管理で「シャインマスカット」の果粒が2gアップ	6
【10】ぶどう新規就農者等の早期技術習得を支援	7
【11】紙笠かぶって日除け～「シャインマスカット」の高温対策	7
【12】ソリダゴ栽培でのLED照明技術の導入について	8
【13】地面にドロマイト石灰塗布で猛暑の夏も快適牛舎	8
IV 新規就農者の紹介	9
V 各賞受賞者の紹介	10
VI 令和7年度新任農業士の紹介	12

真庭農業普及指導センターでは、トップ重点課題に「水田を守る担い手の確保・育成と持続的な水田農業の確立」を取り上げ、「水田農業の担い手確保・育成」「水田農業の効率化と作物の安定生産」「環境に配慮した農業の推進」に取り組みました。

また、「地域農業を支える意欲ある担い手の育成・支援」と「先進的技術の確立・普及と力強い産地の育成及び支援」を活動の二本柱として、新規就農者や経営感覚に優れた経営体の育成、マーケティング戦略等による儲かる農業や農産物のブランド力強化、農作物の安全・安心の確保について推進しました。

I 特集

【1】環境に配慮した水田農業の推進

「みどりの食料戦略システム」により持続可能な農業への取組が重要視されており、環境に優しい栽培体系への転換が求められています。

農業普及指導センターでは、真庭市、真庭広域廃棄物リサイクル事業協同組合等と連携し、バイオ液肥を活用した循環型農業に取り組む実証試験や、環境に優しい農業の啓発を行いました。その活動について紹介します。

1 バイオ液肥を活用した循環型農業の実証試験

真庭市では、市内全域で発生する生ごみやし尿等をメタン発酵させ、バイオ液肥として再資源化する取組を進めており、水稻等の肥料としての活用可能性を検討しています。

そこで、水稻の基肥と追肥にバイオ液肥を活用し、慣行栽培で用いられている基肥一発肥料（以下、「慣行肥料」）と肥料代や収量性について比較実証試験を行いました。

実証結果では、バイオ液肥の方が慣行肥料よりも肥料代を3割程度に抑えられることが分かりました。

また、今年度は生育期間中の気温が高く推移したことから、バイオ液肥を追肥した効果が高く、収量も慣行肥料と比較して多くなりました。

今後、実証結果を関係機関や生産者へ周知し、循環型農業を推進していきます。



ドローンで濃縮バイオ液肥散布

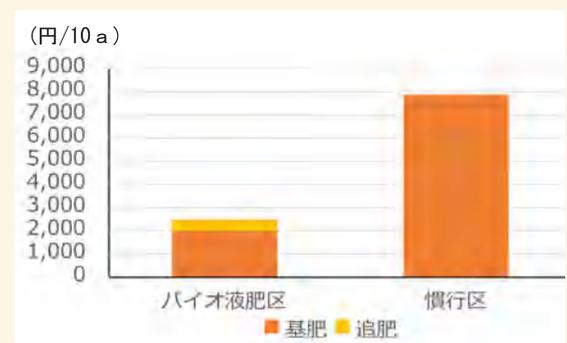


図 肥料代の比較

2 プラスチック被覆肥料の被膜殻流出防止対策の周知

水稻の基肥一発肥料として利用されているプラスチック被覆肥料は、肥料成分溶出後の被膜殻が川等へ流出することによる環境への影響が懸念されています。

そこで、各種講習会の際は、実証試験結果の説明や被膜殻流出防止チラシの配布などで、流出防止対策を呼びかけました。

こうした取組を通じて、環境に配慮した農業への関心が生産者の間で高まるよう活動していきます。



被膜殻流出防止チラシの配布

II 地域の動き

【2】真庭と勝英のクラブ員が交流会

真庭新農業経営者クラブ連絡協議会

昨年度、真庭市に勝英地域の新農業経営者クラブ員を招いて交流会を開催しましたので、今年度は、勝英地域を訪問しました。午前中、勝央町内の桃とぶどうのクラブ員2名のほ場を見学しました。その後、おかやまファーマーズ・マーケットノースビレッジで、それぞれの地域特産品のPRを行い、両地域のクラブ員で相互に情報交換を行いました。参加者からは「他地域でも頑張って農業経営をしている仲間がいて、大変刺激になった。」「地域資源を使った魅力ある農産物や加工品を再発見することができ、とても有意義な会であった。」といった声がありました。今後は、更に他地域のクラブ員と交流を行うことを考えています。



勝央クラブ員の桃栽培ほ場見学



勝央クラブ員のぶどうハウス見学

【3】真庭で農業を始めませんか～真庭農業PRの取組～

新規就農希望者

真庭地域の農業者の声や農業の現場をYouTube（ユーチューブ）で配信したり、農家募集のチラシを作って、真庭の認知度を高め、新規就農者確保に取り組んでいます。動画では、真庭の特徴ある農業や新規就農者受入組織を紹介し、少しでも真庭の農業に興味を持ってもらえるよう工夫しています。詳しくは、YouTubeチャンネル「あぐりまにわ」をご覧ください。また、チラシは「ぶどう農家募集」のインパクトのある表題で、ぶどうや真庭の魅力を伝える内容となっており、県内外の就農相談会で利用しています。



YouTubeでスマート有機農業の配信



ぶどう農家募集チラシ

II 地域の動き

【4】HACCPを学んで、漬物加工に取り組もう

6次産業化経営体

真庭地域の6次産業化に取り組む農業者を対象に、漬物加工販売に必須となるHACCPの考え方に基づいた衛生管理を学ぶ研修会を開催しました。最初に各自の加工施設にあった衛生管理計画を演習形式で作成しました。その後、漬物製造許可を持つ農業者の漬物加工工場に移動して、加工現場と衛生管理の記録状況を見学しました。

参加者からは、自分の加工場にあった衛生管理計画の作成について相談できると好評でした。漬物販売を考えている方、どうぞ農業普及指導センターまでご相談ください。



保健所を講師に衛生管理研修会を開催



自宅に整備した加工場を見学

【5】簿記・税務研修会で経営改善を支援しています

新規就農者・認定農業者など

農業普及指導センターは、12～1月に真庭市役所で、新規就農者や認定農業者の方などの経営管理の向上を目的に、簿記研修会と税務研修会を開催しました。

簿記研修会は3回開催し、複式簿記の説明や、記帳に便利な会計ソフトの紹介とパソコンでの入力操作を体験しました。参加者からは「説明が丁寧でわかりやすかった」、「便利な機能があって楽にできた」などの感想がありました。税務研修会では、税務署職員が令和7年度に税制改正された所得税の基礎控除の見直しの概要を説明し、参加者からは多くの質問がありました。

経営改善のお困りごとは、農業普及指導センターへお気軽にご相談ください。



最初に複式簿記や会計ソフトの概要説明



手順を聞きながら、パソコンに入力

Ⅲ 技術の紹介

【6】 水稻栽培における栽培管理システムの活用

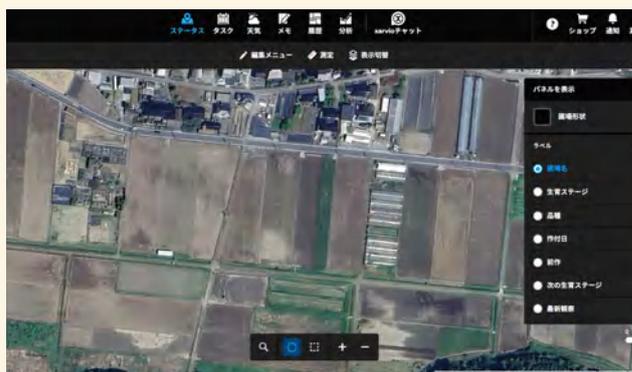
水稻栽培農家

中山間地での水稻経営の効率化を図るため、真庭市の水稻生産者の協力を得て、衛星画像での確認とAI分析が可能な栽培管理支援システム xarvio(ザルビオ)フィールドマネージャー(以下ザルビオ)を試験導入しました。現地研修会では、メーカーの担当者からザルビオの機能や耕作ほ場の登録方法、注意点などを学びました。

また、ザルビオの機能の一つ、生育予測機能について、現地での生育調査結果と比較したところ、生育予測と実際の生育が概ね合致していることを確認しました。



メーカーの担当者がシステム概要を解説



ザルビオの画面

【7】 「仲間づくりと連作障害対策」で白ねぎ産地を支援

J A 晴れの国岡山蒜山白ネギ部会協議会、まにわ南部白ネギ生産組合

真庭地域は県内最大の白ねぎ産地で、新規栽培者確保のため今年度も帰農塾を開講しました。8名が受講し、先輩農家ほ場で実践技術を勉強しました。

うち5名は次年度に白ねぎを栽培予定です。

また、連作障害対策として緑肥の効果を蒜山地域で実証しました。令和6年9月中旬に5種類の緑肥を播種し、同11月中旬にすき込み、令和7年4月末に白ねぎを定植しました。その結果、ライムギ、ヘアリーベッチ、クリムソクローバが、慣行のエンバクに比べて白ねぎの生育が良く収量も多くなりました。



白ねぎ帰農塾で収穫作業を学ぶ受講生

表 緑肥の種類別の収量調査結果

緑肥の種類	エンバク (慣行)	ライムギ	ヘアリー ベッチ	ハゼリ ソウ	クリムソ クローバ
総重量(kg/10a)	4,617	5,230	5,164	3,908	5,790

Ⅲ 技術の紹介

【8】送風ダクト、トマトハウスの昇温抑制に効果

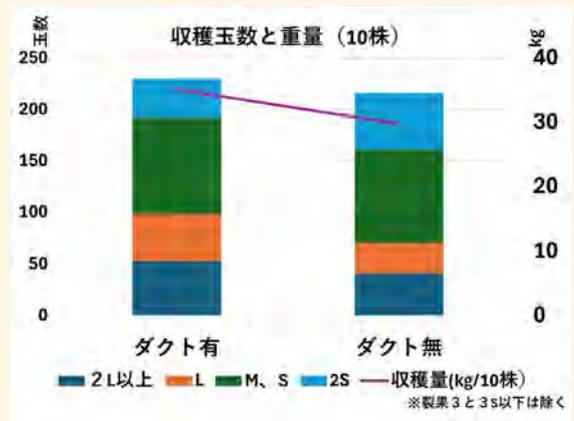
J A 晴れの国岡山蒜山トマト部会協議会

夏期高温によるトマトの裂果等が近年大きな問題となっています。そこでポリダクトに穴をあけて循環扇に取り付けて、ダクトの穴からの送風でハウス内温度を下げる実証をしました（左写真、6m×60mの単棟ハウス、ダクト直径約65cm、50cm間隔に直径5cmの穴）。

調査の結果、7月の最高気温の平均値が2.1℃低下し、果実肥大も良くなり、軽微も含めた裂果はダクト無の42%より7%軽減されました（右図）。また、ダクト穴からの送風が涼しく感じられ、暑い中での枝管理作業の負担が軽減されると期待できます。



妻面に設置した送風ダクト（採空口）

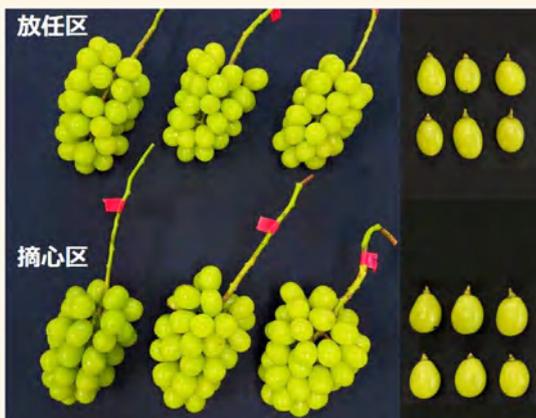


収穫した果実の大きさと収穫量

【9】こまめな副梢管理で「シャインマスカット」の果粒が2gアップ

J A 晴れの国岡山まにわぶどう部会

「シャインマスカット」は産地の主力品種ですが、果粒肥大不足による等級低下に悩まされています。この品種は「ピオーネ」に比べ副梢の発生が旺盛で、果粒肥大に必要な栄養分まで副梢の伸長に取られてしまうと、果粒が大きくなりません。そこで、2週間おきにこまめに副梢の摘心管理をすることで、「ピオーネ」と同様の回数で管理するよりも約2g果粒が大きくなりました。



両区の収穫果房

表 処理区及び実証結果の概要

■各区の副梢管理方法

区	開花前	満開2週間後	満開4週間後	果粒軟化後
放任	摘心	—	—	2週間おきに摘心
摘心	摘心	摘心	摘心	—

■実証結果

区	果粒重 (g)	果房重 (g)	糖度 (°Brix)
放任	12.4	498	18.0
摘心	14.6	530	17.8

Ⅲ 技術の紹介

【10】ぶどう新規就農者等の早期技術習得を支援

ぶどう栽培初心者

ぶどう栽培年数が短い生産者の早期技術習得に取り組んでいます。就農3年以内の新規就農者には、巡回指導を実施しています。個別にほ場を巡回し、生育状況に応じた作業の進め方を生産者と一緒に確認しました。

栽培経験が浅い生産者には、まにわぶどう部会とびほくぶどう生産部会北房支部それぞれで、「新規栽培者ステップアップ講座」を開催しました。本講座は、基本的な栽培管理技術の習得を目的に先輩農家のほ場で実施しましたが、他地区の生産者との交流の場にもなりました。



個別巡回で若木の枝管理作業を確認



ステップアップ講座で土づくりを実演

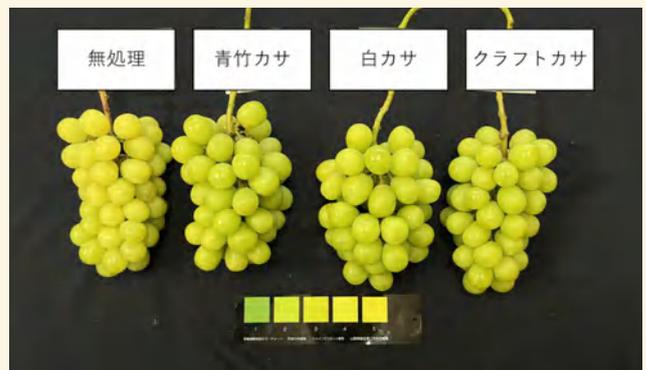
【11】紙笠かぶって日除け～「シャインマスカット」の高温対策

シャインマスカット生産農家

「シャインマスカット」は、近年急速に栽培面積が増えていますが、一方で、夏季の高温の影響で、生理障害や日焼け等による果実品質の低下が問題となっています。そこで、果房への直射日光を遮り、果房の温度を下げるために、袋掛けしたぶどうの房に紙製の笠（青竹、クラフト、白の3種類）を掛け、日焼け程度を調査しました。調査の結果、どの笠でも日焼けを軽減することができました。なお、果皮の黄化軽減に最も効果的だったのは青竹の笠でした。今後も、高温への対策方法を検討し、ぶどうの高品質安定生産を支援していきます。



3種類の笠（左から、青竹、クラフト、白）



収穫された各果房

Ⅲ 技術の紹介

【12】ソリダゴ栽培でのLED照明技術の導入について

J A 晴れの国岡山蒜山花卉部会

真庭市蒜山地域では、ソリダゴの切り花栽培が盛んで、品質の良さには定評があります。ソリダゴを長期間出荷するためには電照技術で開花調節する必要があり、近年はコスト低減対策として、従来の白熱球からLED電球への転換を検討してきました。LED電球は種類が豊富で、植物育成に特化した大変高価なものから、一般照明用の安価なものも販売されています。そこで、試作実証を行い、導入しやすい安価で開花調節効果があるD社の製品を有望としました。草丈がわずかに低くなる傾向があるので、草丈伸長を促す栽培管理を行うことがポイントとなります。



実証に用いたLED電球



LED電球比較実証中のソリダゴハウス

【13】地面にドロマイト石灰塗布で猛暑の夏も快適牛舎

畜産農家

近年の夏の猛暑により、酪農では乳量の低下や乳質の悪化が懸念されています。乳牛は暑さに弱い動物で、温度20℃・湿度40%から暑熱ストレスを感じ始めると言われており、暑熱対策が必須です。令和7年も猛暑の夏となりましたが、牛舎周りの温度を下げるため、北房地区の酪農家の牛舎前の入口にドロマイト石灰を塗布しました。地面の塗布前の温度は56℃でしたが、塗布後は38.5℃と約18℃下がりました。3か月経過後も地面に日が照り付けることはなく、畜主は効果を感じており、牛も快適に過ごしているようでした。今後はドローンによる牛舎屋根への塗布も検討中です。



牛舎入口前周辺にドロマイト石灰塗布



牛舎内の牛の様子

IV 新規就農者の紹介



金崎 心哉 さん

エリア：真庭市草加部 作目：なす、ブロッコリー

高校在学中から、祖父の野菜づくりを手伝っており、早く就農したいと考え、夏秋なすでの経営を始めました。

将来、夏秋なすを中心とした様々な露地野菜に挑戦し、安定経営を目指していききたいと思います。

櫻 誠二 さん

エリア：真庭市下皆部 作目：ぶどう、梨

自分の力で生活できる農業に惹かれ就農しました。シャインマスカットを中心に、ピオーネなどを組み合わせながら規模拡大し、安定した経営を目指していききたいと思います。



藤堂 利恵 さん

エリア：真庭市上水田 作目：ぶどう、きゅうり

農家の手伝いをしながらぶどうときゅうりの栽培を学ぶことができました。現在、兼業の夫と農業に取り組んでいますが、数年後は、ぶどうの規模を拡大し、夫も仕事を辞めて、夫婦でぶどうづくりに励んでいききたいと思います。

原 裕貴 さん

エリア：真庭市中河内 作目：ぶどう、白ねぎ、水稲

ぶどうを中心に年間を通じて収益が上がるような複合経営に取り組んでいます。将来は、法人化して雇用できるような経営を目指していきたいです。



門 保宣 さん

エリア：真庭郡新庄村 作目：白ねぎ、水稲

建設業の傍ら友人の野菜作りを手伝っていましたが、農業で独立したいと考え就農しました。今は、白ねぎ40aを中心に水稲を栽培していますが、将来は、白ねぎの機械化を進め、水稲も地域の農地を預かって規模拡大していききたいと思います。

V 各賞受賞者の紹介



令和7年「秋の叙勲」

旭日双光章

長恒 泰治 さん（真庭市・蒜山）

蒜山の広大な牧草地を活用した自給飼料生産により、酪農の模範となるような経営を実現することで、地域の生産性向上や酪農振興に貢献されてきました。

また、酪農業協同組合の役員として、組織再編や業務合理化等に大きな役割を果たされ、おかやま酪農業協同組合長及び中国生乳販売農業協同組合連合会長任期中には、コロナ禍による酪農不況に対応すべく乳価値上げ交渉や農家支援対策を講じ、組合運営及び組合員の経営安定のために尽力されました。



第58回岡山県農林漁業功労者表彰

知事表彰（農産部門）

井藤 文仁 さん（真庭市・蒜山）

だいこんとミニトマトの複合経営を実践し、安定した経営を実現されています。霜に当て甘みを増した「こだわり大根」のブランド化やミニトマトでの新規就農者育成に尽力され、園芸関係の各種協議会長や市議、JA役員を歴任するなど地域や関係機関からも厚く信頼されています。



第58回岡山県農林漁業功労者表彰

農林水産部長表彰（農産部門）

佐子 ゆかり さん（真庭市・蒜山）

ブプレウラムやトルコギキョウ、ラークスパーなど多品目切り花生産で経営安定を実現されています。技術研さんに積極的に取り組み、地域への波及や高校生や大学生の研修受入れなど、地域農業の発展に貢献されています。岡山県農業士や農地利用最適化推進委員としても活躍中です。

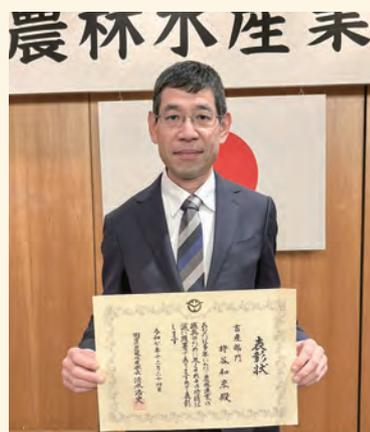
V 各賞受賞者の紹介



第 58 回岡山県農林漁業功労者表彰
農林水産部長表彰（農産部門）
西村 良一 さん（真庭市・北房）

水稲といちごやスイートコーンなどの野菜との複合経営により、年間を通じた収入の確保や労働の分散など合理的な経営を実践されています。

集落営農組織の運営や県産ブランド「晴苺」の生産、バイオ液肥の導入など地域農業のけん引役として活躍されています。



第 58 回岡山県農林漁業功労者表彰
農林水産部長表彰（畜産部門）
狩谷 和宏 さん（真庭市・湯原）

家畜人工授精師として、長年地域の授精業務に携わり、繁殖成績改善により畜産農家の生産性向上に大きく貢献してこられました。平成 13 年から岡山県家畜人工授精師協会真庭支部役員職を歴任、さらに平成 28 年に同協会会長に就任し、中四国地域での交流や情報発信等県内外で活躍されています。



畜産功労者表彰
知事感謝状
三浦 一敏 さん（真庭市・落合）

放牧や自給飼料増産により省力・低コスト化を図り、安定した酪農経営を実現してこられました。また、獣医師としての助言指導により、地域の畜産農家の経営向上に寄与されました。令和 2 年に真南酪農組合長に就任し、関係機関を交えた研修会を継続開催するなど組合員の知識や技術向上に貢献されています。

V 各賞受賞者の紹介



第16回全日本ホルスタイン共進会北海道大会
ジャージー種第18部（未經産シニアクラス）優等賞首席
丸山 昭博 さん（真庭市・蒜山）

全日本ホルスタイン共進会が10年ぶりに北海道で開催され、全国各地から合計400頭が出場しました。岡山県からはホルスタイン種6頭、ジャージー種5頭の計11頭が出場し、丸山昭博さんの愛牛「SRJコンツアー バラナ」がジャージー種第18部で優等賞首席に輝きました。

VI 令和7年度新任農業士の紹介



池田 久美子 さん
住所：真庭市蒜山富掛田
品目：野菜、水稻

22年前から家業である、ひるぜん大根、ミニトマト、水稻を夫婦で栽培しています。どの作物にもカキ殻や堆肥を入れ、土作りに取り組んでいます。

地元蒜山を離れた事がなく、JAや蒜山酪農農業協同組合に勤務していたので、農業生産者、酪農家の方々との繋がりを大切にして、今後も更に蒜山の農業を盛り上げて行けたらと思っています。

表紙の写真説明

トマトで新規就農を目指している実務研修性の技術習得を支援しています。

5月に真庭市鹿田地区水稻ほ場で、ドローンによる濃縮バイオ液肥の散布が行われました。

7月に「まにわいきいき帰農塾」ぶどうコースで、果房の玉直し作業を実習しました。

6月に真庭高校食農生産科1年生がスマート機器を活用した有機農業を見学し、リモコン草刈機の操作を体験しました。

衛生管理研修で、漬物加工場を訪問し、衛生管理や食品表示内容を確認しました。

10月に北海道安平町で第16回全日本ホルスタイン共進会が開催され、真庭管内の出品牛が上位入賞しました。

YouTube チャンネル

MANIWA

あぐりまにわ



真庭地域の農業や就農者の事例など、
真庭地域で就農を目指すための情報が満載！

チャンネル登録して、ぜひ見てね→



https://www.youtube.com/channel/UC4V0Z_6vjxDEqZcR-MCC6dg

お問い合わせ先

岡山県美作県民局農林水産事業部
真庭農業普及指導センター

〒717-8501 岡山県真庭市勝山 591
担い手・農産班 TEL:0867-44-7582
園芸班 TEL:0867-44-7583・7585

FAX:0867-44-4046

e-mail:maniwa-fukyu@pref.okayama.lg.jp

HP:www.pref.okayama.jp/soshiki/127/



農畜産物生産課

〒717-8501 岡山県真庭市勝山 591
畜産第二班 TEL:0867-44-7564
FAX:0867-44-4754

美作広域農業普及指導センター

〒708-8506 岡山県津山市山下 53
革新農業推進班 TEL:0868-23-1496・1513
FAX:0868-23-5962